



NISHINOMIYA STORKS



現役Bリーグ選手の今野翔太さん(36歳/西宮ストークス所属)。2007-08シーズンのプロデビュー以降、15年にわたって活躍を続けている。

SOCIAL 摂津市出身Bリーグ選手「今野翔太」さん 選手と社長業両立でバスケットを普及

「サッカーや野球は近所にグラウンドがあって、行けばすぐに遊べる。でもバスケットボールは体育館を予約しないと遊べない。他のスポーツに比べると根付いていないと感じます」。そんな現状を改善するために、2019年9月にCentral W株式会社を立ち上げた。

主に幼稚園や保育園、介護施設などに訪問し、バスケットボールの魅力を伝え、「ゴールがあればちょっとしたゲームもできる」とゴールを寄贈。またSPIRIT ACADEMYというキッズスクールを運営する。現役でありながらこういった活動を行うのには強いこだわりがあるという。「現役だからこそ一つひとつの言葉に説得力があり、響くものがあると思うんです。子どもたちも現役の選手が来るってなると喜んでくれますね」。また、引退後のロールモデルになりたいとも話す。「スポーツ選手のセカンドキャリアって難しいんです。僕がこうい

う活動をするので、『そんな選択肢もあるんだ』って考えるきっかけになれば嬉しいですね」。

今年9/20(月)には摂津市のデイサービス「ツクイ摂津別府」にゴールの贈呈式が開かれた。会場は今野さんを迎えるための装飾やうちわが用意されていて歓迎ムード。職員がシュートパフォーマンスを見せたり、利用者からは「彼女はいるんですか?」など茶目っ気のある質問も飛び、大盛り上がり。「おばあちゃん子なので、できれば参加して皆さんとお話したかった。リモートでも喜んでもらえて良かった」と嬉しそうに話す。贈呈されたゴールは利用者の機能訓練に活用されるという。

スポーツ界では36歳はベテランの域。「同期で現役の選手は少なくなってきましたが、試合に出続けられる限り続けたいですね。49歳が最高齢なので50歳を目標に頑張りたい」と話してくれた。

コラム COLUMN

梅花から「令和」を込めて

五穀豊穡に感謝して

11月は、五穀豊穡に感謝する新嘗祭が各地で行われます。『万葉集』には天平勝宝四年(752)、従三位文室智努真人の歌が次のように残されています。

天地と久しきまでに 万代に
仕へ奉らむ 黒酒白酒を
天地与 久万弓尔 万代尔
都可倍麻都良牟 黒酒白酒乎

(巻19・4275番歌)

「天地とともに）幾久しく、万代までも(新穀で神酒を醸造して)奉献いたしましよ、黒酒と白酒とを(揃えて)」と詠まれています。「白酒」は濁酒。「黒酒」はクサギという植物の灰を混ぜて造られていました(『延喜式』巻40「造酒司」)。昼間の厳かな神事が、夜の宴の場で思い起こされ、詠まれています。

都の歌に対して、東国には次のような歌を見つかることができます。

誰そこの 屋の戸押そぶる 新嘗に
我が背を遣りて 斎ふこの戸を
多礼曾許能 屋能戸於曾夫流 尔布奈末尔
和我世乎夜里弓 伊波布許能戸乎

(巻14・3460番歌)

「誰ですか家の戸を押し動かすのは、新嘗に夫を行かせて、(家で)神事を行っているこの戸を(押し動かすのは)」と。留守を狙っての侵入者なら物騒ですね。

『常陸国風土記』「筑波郡」の条には、

祖先神が、多くの神々の所を廻られたというエピソードが、次のように記されています。日も暮れたので、駿河国(静岡県)の富士山で宿泊を求められたところ、新穀祭の最中。家の中は物忌みをしているので無理です、と断られたそうです。祖先神は「あなたの親なのに泊めてくれないのか」と、たいそう恨まれたとのこと。常陸国(茨城県)の筑波山では、新嘗の最中ですが、それでもよろしければと迎え入れられ、祖先神が喜んであります。富士山は恨みを受けて夏でも雪が降り人も登らず、筑波山は今日でも、人々がにぎやかに行き集い、歌い舞う行事が続いている由縁になっています。先の東歌も、そんな神事の一場面を詠んでいるようです。

祝い方は地域によって様々のようです。皆さんのところでは、どのようにされているのでしょうか。私は新米を食べて、季節の恵みに感謝したいと思います。

梅花女子大学教授 市瀬 雅之

現代訳から原文までを用いて『万葉集』に文学を楽しむほか、『古事記』や『日本書紀』等に日本神話や説話、古代史をわかりやすく読み解く。中央大学大学院修了 博士(文学)。著書に『大伴家持論 文学と氏族伝統一』おうふう1997年、『万葉集編纂論』おうふう2007年、『北大阪に眠る古代天皇と貴族たち 記紀万葉の歴史と文学』梅花学園生涯学習センター公開講座ブックレット2010年。ほか執筆・講演・講座多数

SOCIAL 京阪神初 市民サービス向上を目的に 箕面市とDeNAと包括連携協定を締結

箕面市と株式会社ディー・エヌ・エーは、10月7日に、包括連携協定を締結した。これにより、双方の資源を有効に活用した健康寿命の延伸のためのヘルスケア事業や、自治体DX(デジタル・トランスフォーメーション)などの活動を推進し、地域活性化や市民サービスの向上を図るとしている。

※DXとは、ICTの浸透により人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させ、デジタル化により社会や生活の形・スタイルが変わることである。



SOCIAL 「Osakaほかさんマップ」新たな プラスチックごみ対策がスタート

大阪府では、プラスチックなどの使い捨て容器の削減のため、マイ容器・マイボトルで食料品や飲み物などを持ち帰ることができるお店・給水スポットを簡単に探せるウェブサイト「Osakaほかさんマップ」を10月1日に開設した。

日本は1人当たりのプラスチック製容器包装の廃棄量が世界で2番目に多い。

また、コロナ禍でのテイクアウトなどの利用増に伴い、府内の使い捨てプラスチックごみも増加しているという。本サイトでは、約500店舗の小売店が掲載され、マイ容器利用による値引きなどのお得なお店の情報も掲載している。詳しくは「Osakaほかさんマップ」のホームページを参照。



SELECT

1955年 神戸市生まれ。1980年「青」に入会。波多野爽波に師事。2000年「ゆう」入会。田中裕明に師事。編集担当。2010年俳誌「秋草」を創刊し主宰する。毎月発行。句集に『書信』『讀本』『木簡』がある。2018年句集『木簡』で読売文学賞受賞。日本文藝家協会会員。

選者
山口 昭男
やまくち あきお

【俳句の応募方法】
氏名・住所・年齢・明記のうえ、ハガキ、封書、FAX、下記の応募フォームのいずれかからご応募ください。

【宛先】
〒566-0001 大阪府摂津市千里丘1-13-23
株式会社シティライフNEW 俳句係まで
FAX 06-6368-3505

【応募フォーム】
<https://pro.form-mailer.jp/fms/f413b102177160>



※締め切りは毎月25日必着 ※いずれも一人5句まで
※掲載は次々号となります
※佳作は掲載をもって発表とさせていただきます。
※お名前と作品を掲載します。

「つぶやき評」
俳句のひとつの形に取り合わせがあります。季語とものやことを合わせた形です。この俳句で季語が働かなければたんなる説明や報告となってしまいます。最適な季語を選べるように季語と懇ろな関係を作っておくことです。

「佳作」
麦畑け縁の小径月におう
木の葉髪使うは同じ皿小鉢
良い手紙悪い手紙も後の難
冬山の裾を一両列車行く
ひとことを告げたき夜に萩こぼれ

箕面市 鳥崎 裕子
吹田市 小澤 桔梗
吹田市 堀田 恵美子
西宮市 宮部 志津枝
茨木市 毎熊 照子

「入選」
咸陽の戦どこ吹く風の稲
新涼や話相手の犬連れて
携ふる母の葉や秋日和
団栗に目をとられつつ話す人
秘めごとと秘めごとのまま盆の月

京都市 筒井 安純
茨木市 河本 要
豊中市 田村 由紀子
豊中市 佐々木 愛子
茨木市 廣田 静子

俳句 / HAIKU

9月25日締切りでご投稿いただいた中から、山口昭男先生に入選作品を選んでいただきました。

「優秀賞」
仮縫いの糸はみずいろ小鳥来る
箕面市 高橋 真美

「入選」
季語「小鳥来る」は秋の澄んだ空を飛んでくる色とりどりの鳥のこと。この季語で秋の深まりが伝わります。そこにみずいろの糸。うまいなあと思えます。昔ながらの洋服屋を思い浮かべてしまいました。